

平成 9 年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 鉢物用りんどう「ももこりん」		
<p>[要約] 鉢物用品種「ももこりん」は「いわて乙女」の開花期より遅い9月下旬～10月上旬に出荷できる品種であり、ササリンドウ系の「鉢白」と同系選抜系統「IP」の交配により作出された栄養繁殖性の品種である。既存品種と異なり、花蕾が順次発達・開花するので、適温下で1カ月程度開花を続ける。草丈は20cm程度で揃いが良い。花色は紫がかった桃色であるが、花冠外面に赤紫色の縞模様がある。高温時に花冠の先端が外反転する特性を有している。</p>					
キ - ワ - ド	品 種	りんどう	ももこりん	桃 系	園芸畑作部 花き研究室

1. 背景とねらい

鉢花に対する消費は拡大傾向であり、今後とも生産拡大が期待できる分野である。

これまで、県が育成した鉢物用品種は「いわて乙女」のみであり、9月下旬から出荷できる品種がなかったため、鉢物用品種の長期出荷体系の充実や多様な商材の提供の点から新品種の開発が求められていた。「ももこりん」は県育成品種で初めての桃花であり、「いわて乙女」と異なり、花冠先端が展開する品種である。また、長期間開花を続ける性質は、鉢物として非常に有利な特性である。

現在品種登録出願中であり、種苗の供給も可能となってきたため、品種の特性を紹介する。

2. 技術の内容

1) 来歴

旧岩手園試本場において、既存品種「いわて乙女」より開花期が遅い鉢物用品種の開発を目的として、昭和61年にササリンドウ系選抜系統「鉢白」を母親、同じくササリンドウ系選抜系統「IP」を父親として交配・育成した。なお、平成8年に品種登録の申請を行っている。

2) 特性の概要（挿し木当年苗、無摘心栽培）（表1、2）

(1) 開花期：育成地（北上市）付近で9月下旬～10月上旬である。ただし、既存品種と異なり花蕾が順次発達・開花するので、適温下では1カ月程度開花を続ける。

(2) 草丈：20cm程度で揃いはよい。

(3) 茎：茎の太さは細、強さは中程度である。茎色は、緑色の地色に赤紫色の着色がみられる。茎全体に側枝が発生する（1茎当り7本程度）。

(4) 花：花色は紫がかった桃色であるが、花冠外面に赤紫色の縞模様がある。斑点は花冠内外面にわずかに発生する。高温時に花弁の先端が外反転する。

(5) 葉：中位部で長さ3cm程度、幅1.5cm程度で小さい。色の濃さは中程度で光沢は少ない。

(6) その他：栄養繁殖性品種である。増殖は組織培養または挿し木による。

3. 普及上の留意事項

(1) 一代雑種のため、採り返しの種子は利用できない。

(2) 挿し木のための採穂は、花芽分化を開始した株より行わない。

(3) 葉枯病に抵抗性を有する。他の病害については従来品種並である。

4. 技術の適応地帯

県下全域（露地普通栽培、促成栽培）

5. 当該事項に係る試験研究課題

りんどうの品種育成

6. 参考文献・資料

平成8年度新品種紹介りんどう「ももこりん」

7. 試験成績の概要

表1 品種特性(平成7年)

品 種	開花期 ¹⁾ (月・半旬)	開花順序	花冠の色 ²⁾		花冠先端の転回	花冠外面の縞模様	
			内面上部	外 面		有無	色 ³⁾
ももこりん (無摘心栽培1年株)	9・5	上から	明赤味紫 (8905)	浅 紫 (8603)	外反転	有	灰 赤 (9717)
いわて乙女	8・1	全 体	未調査	未調査	やや外反転	無	
福 姫	(購入株のため不明)	上から	明赤味紫 (8905)	浅赤味紫 (8910)	外反転	有	緑 褐 (2908)

花冠内面上部の斑点	花数の多い位置	草 丈 (cm)	茎の太さ ⁴⁾	茎の強さ	茎の色 ⁵⁾	節間長 ⁶⁾
中	下部	19	細	中	中	短
中	全体	40	中	強	中	短
多	上部	14	細	中	中	短

注1)開花期：全体の50%程度開花した時期

2)花冠の色：日本園芸植物標準色票による

3)花冠外面縞模様の色：2)に準じる

4)茎の太さ：草丈の1/2の位置、太～中～細の3段階で評価

5)茎の色：上部節間の色、緑～中～黒の3段階で評価

6)節間長：上部節間の長さ、短～中～長の3段階で評価

表2 ‘ももこりん’品種特性(摘心栽培1年株調査、平成9年)

開花期 (月・半旬)	草 丈 (cm)	立茎数 (本/株)	株 重 (g)	節 数 (節)	一次分枝数 (本)	有効花蕾数 (個)
9・3	10.4	3.4	28.2	6.6	6.6	34.0

[耕種概要]

採穂用株加温開始 1/21、採穂・挿し木(天挿し) 3/25、鉢上げ 5/7、

摘心 5/21、

3号ポリ鉢に1株植